

# 麻布大学ティーチング・ポートフォリオ

所属 獣医学科

職階 講師

氏名 藤野寛

麻布大学では、教育研究活動その他大学の諸活動を恒常的に自己点検・評価し、その結果を検証して改善に結び付けることにより、教育の質保証を行う観点から、各教員が『ティーチング・ポートフォリオ』を作成しています。ティーチング・ポートフォリオの構成及び更新サイクルは以下のとおりです。

1. 教育の責任・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
2. 教育の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
3. 教育の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
4. 教育の方法の改善・向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組・・・ 毎年
6. 学生の学修成果向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
7. 指導力向上のための取組・・・・・・・・・・ 3年
8. 今後の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年

## 1. 教育の責任

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

教育活動として、主に獣医学科の学生を対象として微生物学（ウイルス）の教育を行っている。特に獣医微生物学実習では中心的に動いており、ウイルスの取り扱い・ウイルス感染価の測定といった基本的なウイルスの実技を教育している。研究室では所属する学生の卒業論文指導やゼミを行っている。その他に獣医学科5年次の担任を受け持っている。

科目名	学科・専攻	単位種別	配当年次	受講者数(単位:人)
獣医微生物学総論	獣医学科	必	2	140人
獣医微生物学各論Ⅰ	獣医学科	必	2	140人
獣医微生物学実習	獣医学科	必	3	140人
獣医学特論Ⅰ（ゼミ）	獣医学科	必	5	6人
獣医学特論Ⅱ（ゼミ）	獣医学科	必	5	6人
総合獣医学	獣医学科	必	6	140人
卒業論文指導	獣医学科	必	6	6人
微生物学	動物応用科学科	必	2	140人

## 2. 教育の理念

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

研究室での指導においては、基礎知識に基づいた正確な実験手法の習得や科学的思考に基づいた実験・研究計画の作成が可能である様な学生が生まれることを目標としている。実際には、科学の基礎を理解し、基本的手技を身に着け、ある程度研究を自分で進めることが出来るようになってほしいと考えている。また、獣医学科では進路として臨床獣医師を考えている学生が多い点から基礎的な科目である微生物学実習に身の入らない学生が毎年数名認められる。実習においてはこういった基礎科目を苦手としている学生にも基本的な微生物の取り扱いを習得し、感染症学を理解してほしいと考えている。

### 3. 教育の方法

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

講義及び実習においては毎回ミニテストを実施している。特にミニテストでは国家試験の過去問題などを出題することで、臨床系以外に興味を持たないような学生も微生物学の知識が重要であることを認識してもらおうとしている。また、ミニテストの内容を毎年少しずつ変えながら出題し、最終回で内容を配布している。翌年の学生が対策資料として手に入れ、ミニテスト対策として去年度の資料を勉強することでより理解を深めてもらうことを目的としている。また、研究室の指導では定期的に学生の手法を確認し、間違った手法が広まっていないかを確認している。卒論をすすめる際には大枠のゴールを設定し、それに至るための解析方法や考え方を話した後に、具体的な手法を学生に提案してもらいすすめるようにしている。特に条件検討などは学部学生には負担が大きいが、単にこちらの出した条件で実験するのではなく、一つ一つの実験で学生に考えてもらい、自分の時間を使って自分で考えた実験系を進めさせるようにしている。

#### (1) アクティブ・ラーニングについての取組

有

獣医学科ではコア・カリキュラムに沿って時間内に必要な事項を学生に伝達する必要があるため、学生による討論や積極的なやり取りを多く取り入れることは難しいと考えている。現在のところは定期的に学生に質問する等の方法で緊張感を保ってもらう等を実施している。

#### (2) ICTの教育活用

有

2020年度～2021年度はコロナ感染症対策の一環として多くの時間をオンライン講義で実施した。本年度を含めて2022年度以降は基本的に対面で実施し、一部をオンデマンドで配信している。

## 4. 教育の方法の改善・向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

### (1) 教育（授業及び実習等）の創意工夫

A

講義・実習を通して、ミニテストを実施する事で緊張感をもって説明を聞いてもらうようにしている。特に実習ではあまり積極的に参加しようとする学生もいるので、そのような場合でも成績に直結させることにより、モチベーションを保ちやすくしている。また、実習ではなるべく多くの学生が実際に手を動かすことで出来るように準備するサンプル量を増やし、内容によっては一人で独立して実施する事が出来るようにしている。

### (2) 学生の理解度の把握

A

理解度の把握においてはミニテストの実施や実習では部屋を回りながら学生の動きを見て引っかかっている所を確認できた場合は適時指示をしている。

### (3) 学生の自学自習を促す工夫

A

自主学習を促すための工夫としては前述のようにミニテストの資料を配布することで、翌年度の学生が対策資料として手に入れた前年度ミニテストを勉強することに期待している。

### (4) 学生とのコミュニケーション

B

学生とのコミュニケーション・質問への対応としては一般的な講義・実習後の質問受付やメールでの対応を行っている。

### (5) 双方向授業への工夫

C

双方向授業への工夫は現在特に取り組んでいる点がない。

### (6) 国家試験対策の取組（獣医学科・臨床検査技術学科）

A

国家試験対策としては定期的にミニテスト内に国家試験の問題を出すようにしている。特に実習科目では直接的に国家試験に影響しないのではないかと考える学生が多いと考えられるので、そういった学生向けに実際に今行っている作業が画像問題などで出題されることを示すことによって実習へのモチベーションが少しでも高まるのではないかと期待している。

## 5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

### (1) 授業評価アンケート結果の授業への反映

授業評価では板書が読みにくいとの指摘があったため、板書でなくスライドに移行した。また講義スライドを配布してほしいとの要望があった。すべての情報を事前に公表した場合、事故につながるような重要な注意点を聞き逃す可能性が考えられたため、要所要所で空欄にし、説明を聞いてもらいながら記入させる方式をとった。

### (2) (1)の結果による改善・向上の具体的な成果又は課題

スライドを映して、その中で書き込みをした。あるいはスライド上で文字を表示させる等の方法で板書以外の提示法を実施した。これにより板書に関する問題はなくなった。事前に配布することで、重要なところは写し書きながら、余裕をもって講義に参加させることが出来た。

### (3) (2)を踏まえた次年度の取組

スライド表示に関する問題では赤色の文字を用いて強調を示していたが、一部の学生から色覚障害の場合に赤色での強調は見にくいと指摘があった。今年度途中から実施していたが、来年度も同様に、強調部分は単に赤色だけでなく下線を引くなども加えることで色覚障害の学生にも内容が伝わるように配慮する。来年度も継続して資料配布のタイミングや内容に関して検討を続ける。

## 6. 学生の学修成果向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

### (1) 現在までの学生の成績向上に資する取組及びその成果並びに今後予定している取組

ミニテストを実施する事で、定期試験前に一度に詰め込むのではなく、講義ごとに一定量の知識を保持させるようにしている。

### (2) (1) の取組を通じて改善・向上が図られた学生の学修成果並びに当該取組に対して得られた学生及び第三者からの評価又はフィードバック

特に無し。

## 7. 指導力向上のための取組（FD研修参加等）

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

参加できなかったFD研究会に関しては後日のオンデマンド配信を受講する等、積極的に参加している。

## 8. 今後の目標

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

講義や実習に関しては国家試験合格率の向上と感染症に関わる必要な知識を身に着けた獣医師の育成を目的としている。研究室での教育に関しては前述の通り、科学の基礎を理解し、基本的手技を身に着け、ある程度研究を自分で進めることが出来るような学生の育成を目標としている。また、実験を行うだけでなく、発表面に関しても研究概要のまとめ方や提示する際のレイアウトを調整するといった訓練も兼ねて、卒業までに学会などの外部での発表を行わせることを目標としている。短期的には研究室から出す論文数の増加、講義で用いるミニテストの量と質の向上を目指し、長期的には研究室内の手法や機器類等、そして学生がより主体的に研究に関われるような環境を整えていく。

## 9. ティーチング・ポートフォリオを作成する際に活用した根拠資料

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

麻布大学シラバス

麻布大学キャンパスプラン